

《学校教育目標》
正しく 楽しく たくましく
 ～他者との協働的な活動を通して 自らの考えを深め 学んだことを活用しようとする子どもの育成～

《豊かな心》…**正しく**

- 自分自身の考えを、**根拠を元に主張しつつ対話や議論**を通じて、**多様な考えを持つ人々を尊重しつつ、協働**していくことができる。
- 「命」を大切に**する心や**他人を思いやる心、感動する心**など、豊かな人間性を育む。
- 自尊感情の高揚**を図るとともに、**共感的に他者を受け入れる姿勢**を築くことで、望ましい人間関係を紡ぎ、学校全体に**人権尊重の基盤**を構築する。

「わかる」から「できる」へ

《健やかな体》…**たくましく**

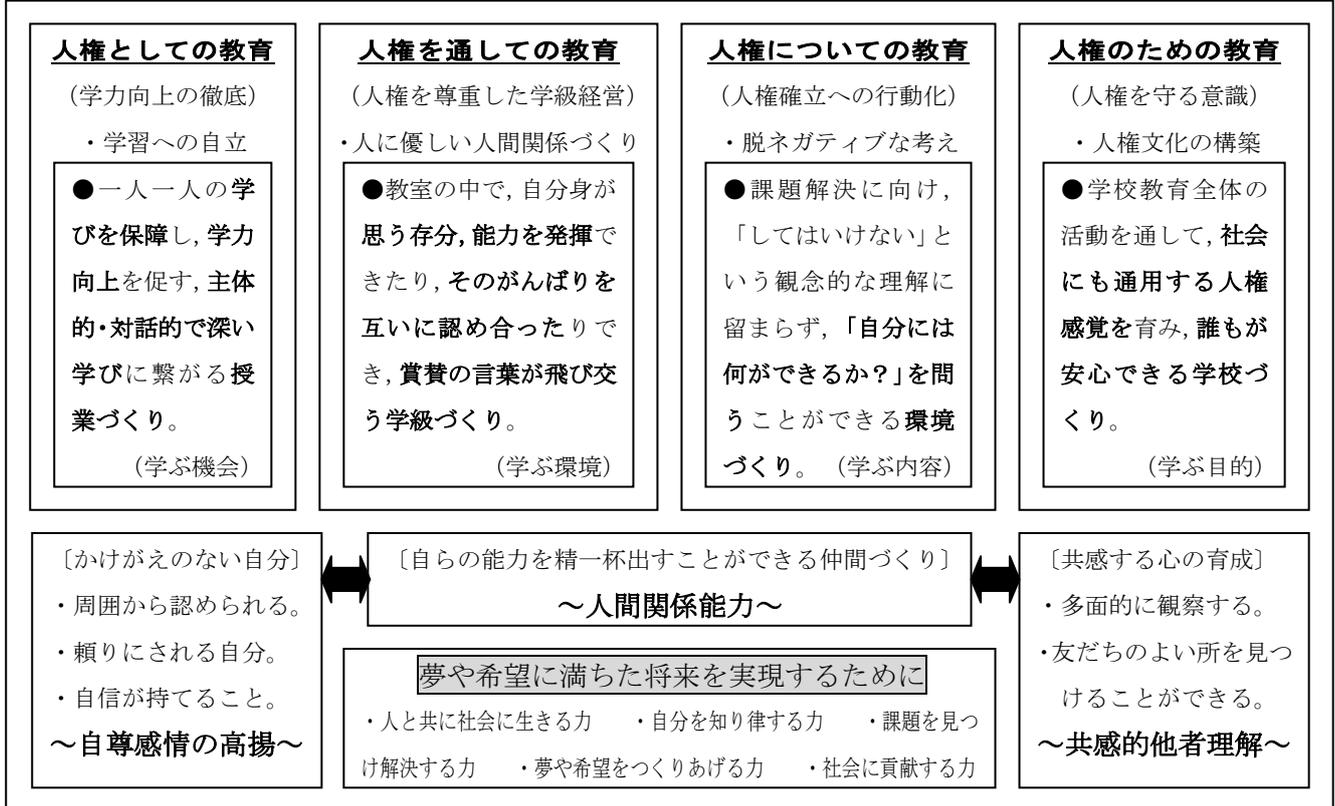
- あらゆる教育活動において、**一生懸命がんばること**ができるとともに、「**自らの身は自らが守る**」という**主体的に安全に行動**する。
- よりよい生活の実現に向け、自らの行動で課題を解決したり、社会貢献したりするなど、**社会の形成者としての自覚**を促し、**規範意識**を育む。
- 健康な生活習慣確立に向け、**自己の日常生活を振り返り**、**健康の保持増進**に努める。

《確かな学力》…**楽しく**

- 学ぶことに**興味を持ち、見通しを持って粘り強く取り**り組むとともに**自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習に繋げ**ることができる。
- 自ら考えたことを**他者と意見交換したり、論議**したりすることで、**より妥当なものに**することができる。

■**教科横断的に**培うべき**資質・能力**を踏まえ、習得⇒活用⇒探究という学びの過程で、「**各教科等の特質に応じた見方・考え方**」を採り入れながら、**精査した情報を基に自らの考えを形成**したり、**目的や場面、状況等に応じて伝え合**ったりしながら**集団としての考えを形成**することができる。

安心で安全な学校づくりの推進 [主体的に安全な行動をとる子ども]



学校教育活動のすべての分野で、子どもの命を守りきる。

平成 27 年 3 月 6 日（金）4 校時に発生した 6 年 2 組の理科実験中における事故について、原因を究明し、再発防止に向け、学校における確かな安全管理を確立するとともに、児童自らが安全に行動できるような安全教育を充実させるよう、すべての学校教育活動を安全の視点で見直し、子どもの命を守りきることを最優先に取り組んできた。

平成 27 年度より、校内研究の分野を「学校安全」とし、より安全な教育環境を整備するとともに、自ら進んで安全に行動する児童に育成をめざしてこの 4 年間、安全教育・安全管理、そして、組織改善を進めてきた。さらに一昨年度からは、安全教育と学級経営・学力向上とも関連を図り、学校教育活動における全ての時間で、主体的に安全な行動をとることができる子どもの育成に取り組んできている。

今後も、上記の考えを学校教育活動のベース（「学校教育活動のすべての分野で子どもの命を守りきる」）とし、子どもたちの健全育成に取り組んでいきたい。今後も引き続き、学校安全を校内研究の中心に据えて取り組んでいくために、事故関連報告書[平成 26 年度]より抜粋し、全教職員が共通理解の下、日々の学校教育活動を進める。

1. 安心で安全な教育環境を保障するとともに、自ら考え、安全に行動できる子どもを育む。…安全な教育環境整備を進めるとともに、主体的に安全に行動できる子どもを育むために、**学校安全主任（安全管理）・研究主任（安全教育）が中心となり、全教職員が一丸となり、「学校安全」を進める。**

◇安全点検システムの再構築（定期点検と日々の点検）

◇有事の際に機能する避難訓練計画の立案・実施（避難訓練・教職員研修の充実）

◇学習計画立案時（週案上）における安全配慮事項の確認（危険予知能力向上）

◇安全教育を進めつつ、主体的・対話的で深い学び向かう授業づくりの実践（校内研究の充実）

◇細心の注意を払い安心安全な給食調理を進める。（HE 防止に向け W チェック）

《学校安全における指針》

自他の生命を守るために 危険に気づき 正しく判断し

自ら安全に行動できる 子どもの育成をめざして

～生活を見つめ 自ら考え 行動できる 修学院の子～

《「わかる」から『できる』への確かなプロセスを見通して》

※平成 27 年 3 月 6 日（金）3 校時 6 年「理科」 ～6 年のまとめの時期～

[事故の原因について]

- 担当している教職員が、火を扱っている実験現場を離れたこと。また、事前に、各グループの実験内容も踏まえ、巡回体制などを十分検討したうえでの安全対策が講じられていなかったこと。
- ガスコンロの器具の特徴や使用方法の徹底、万一に備えた消火用のバケツの用意など児童への注意喚起や安全対策が不十分であったこと。

- 風や炎の見え方等への影響を十分配慮せず、屋外でガスコンロを使用したこと。

[今後の安全対策と再発防止に向けて]

- ① 教員の安全管理体制の構築を徹底し、今後、授業の実施内容、方法等について、より細かく担任や管理職が把握した上で、教員の目の行き届く指導体制をとる。
⇒週案（備考欄）には、必ず安全配慮事項を記載する。
⇒学校安全日の意識化を進め、随時安全環境の見直しを図る。
- ② 理科学習のみならず他の教科においても、安全に配慮しなければならない道具や器具を使用する場合、使用する環境を安全に整えると共に、予め器具の使い方に対する安全指導を徹底して行う。
⇒各教科における安全配慮事項を毎年まとめる。
- ③ 教職員一人一人が徹底した事故防止に対する意識改革を行い、学校教育全般において安全教育や安全管理を積極的に進める。
⇒児童の目線に合った安全教育を進める。また、児童自らも互いの安全を確かめ合う環境を整える。
⇒リアルマッチング研修を進め、有事に備える。

人々が自他の安全を確保するためには、個人だけではなく社会全体としての安全意識を高めることが必要である。そして、人々が安全な社会を築いていくためには、次代を担う子どもたちに高い安全意識を育まなければならない。今や、様々な事故をはじめ、自然災害や原子力発電による恐怖など、子どもを取り巻く環境は予断を許さない状況にある。子どもたち自らが次代を逞しく生き抜くための土台として、安全確保は最大の課題である。

いつ、何が起こるか分からない予測不能の時代を生き抜くために

元来、学校は安全が確保され、子どもたちが安心して活動できる教育施設である。しかし、100%そうなるためには、学校における安全管理のみならず、学校は子どもたち自身の内面的発達にも刺激を与え、自ら安全を意識できるよう取り組んでいかなければならない。

安全は作ってもらうものではなく、自らの手で積み上げるもの

この刺激は学習活動を通して「安全教育」として意識的に進めていかなければならない。そして、その視点は、すべての教科・領域の分野に網羅されているものであると考えるべきである。また、指導者は、常に安全の視点で授業を見つめ、子どもたちの自律を促す授業づくりを意図的に組むことが大切である。

一方、子どもたちの安全環境を整える「安全管理」も重要である。各教室・廊下・運動場等、校内のあらゆる教育環境で、子どもたちが安心して活動できるよ

う日々の点検や改善が必要になってくる。これまでも安全点検や安全に向けた改善は進めてきているが、今後においては、課題を見つけたら、よりスピーディーに改善を図ることを肝に銘じて取り組むことが重要である。

教職員一人一人，子どもたち一人一人が安全の番人であれ

さらに，このような「安全教育」「安全管理」の充実を図るためには，それらの取組を効果的に進めることができる組織体制も確立しなければならない。

以上に示すように，今年度も，「安全」をキーワードに，学校全体のソフト（学習）面・ハード（管理・組織）面にセーフティネットを張り巡らし，子どもたちの成長を促したい。二度と同じ轍を踏まないように…。

重点目標

1. 自ら安全な行動がとれる子どもに…安全教育を通して
2. 安心・安全な学校をめざす安全管理の充実…日々の安全管理を通して
3. 安心・安全な授業の推進…見通しをもった授業展開（授業づくり）
4. 現実を想定した訓練や研修に実施…避難訓練・職員研修等

【災害に備えた防災教育について】

平成30年に起こった大坂北部地震や台風21号は京都にも甚大な被害をもたらした。東日本大震災をはじめ，これまでの災害の教訓も踏まえ，教職員や子どもたち一人一人が，自然災害は他人事ではなく，自分事として捉え直し，身近に起こり得るものという意識を，年度当初に再度確認しておくことは基本である。その意味でも，危険管理マニュアルが有事の際の指針となるよう，日々の点検を進めて行く。また，考えたことを実践するリアルな実地訓練（避難訓練）を進める。

【◆避難訓練及び◇教職員研修の推進】

- ◆地震発生時のシェイクアウト訓練（地震音声システム使用による第一次避難）
- ◆地震・火災発生による避難訓練
- ◆震度5弱以上の地震発生による引き渡し訓練
- ◆不審者対応訓練
- ◇水難救助訓練
- ◇落下事故による実地訓練
- ◇食物アレルギー対応訓練
- ◇不審者対応訓練

※今後も教職員が子どもと向き合う時間を確保し，いきいきとやりがいを持って働くことができる環境の整備は，「質の高い教育活動の実践」「教職員一人一人の自己研鑽の時間の確保」「将来にわたる教職員の確保」といった本市教育の根幹に関わる課題となっています。その課題の克服に向け，今年度も，教職員の働き方改革をより具現化していきたいと考えています。

学校教育目標達成に向けて

